

「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会委員名簿

〔順不同・敬称略〕

任命区分	役職名	氏名
学識経験者	新潟大学農学部生産環境科学科教授	有田 博之
	森林総合研究所森林遺伝研究領域生態遺伝研究室研究員	金指 あや子
	神奈川大学経済学部経済学科教授	佐野 賢治
	東京農工大学農学部教授	福嶋 司
関係団体の役員	関東森林管理局会津森林管理署南会津支署長	中島 朝長
	福島県南会津地方振興局県民環境部長	伊藤 望
	只見町商工会事務局長	目黒 長一郎
	只見町文化協会会長	飯塚 恒夫
	ブナセンター友の会代表	小沼 昇
	只見の自然に学ぶ会代表	新国 勇
	只見町教育委員	馬場 都美
町代表	只見町副町長	久保 克昌

任期:平成23年12月13日～平成24年3月31日



▲一般に公開された委員会

新潟・福島豪雨災害からの復興事業
第1回「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会

豪雨災害からの復興の基本方針の理念である「活力ある社会経済の再生」を実現するための事業として、12月13日に季の郷湯らで第1回「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会が開かれました。

委員長の選出で、委員長に有田博之新潟大学農学部生産環境科学科教授が、副委員長には只見の自然に学ぶ会代表の新国勇さん(只見)が選ばれました。

会議では、これまでの経過として、世界ブナ・サミットを2回開催したことや、平成19年7月27日に開かれた、子どもブナサミットにおいて「自然首都・只見」を宣言したことなど、ブナ林を活用した主な事業の説明が事務局よりあり、只見の自然のブランド確立について意見交換が行われました。

全体意見として、ユネスコ・エコパークを戦略のひとつに考える。自然と人(住民)との結び付きをPRする。キーコンセプトをつくる。自然保護と活用をミックスして考える。今回の災害も含め活用を考える。都会人は本物の自然が好きであり、上手くPRすればリーダーがでる。などの意見が出されました。今後も数回の検討委員会が行われ、3月中旬に各委員の意見が集約された提言書が町に提出される予定です。なお、委員の皆さんは名簿のとおりです。

役場庁舎建設基本計画案示す
町政懇談会

12月20日に、只見地区センターで町政懇談会が開かれ、町民の方約50名が参加しました。

目黒町長のあいさつに続き、役場庁舎建設基本計画の案が、設計などを担当する環境システム研究所(東京都)の方から示されました。その後の質疑応答では、どこに建設するのかという質問に目黒町長は「只見町地域計画における基本方針のとおり進める考えは変えていない。現庁舎の敷地内に建設を考えている」と答えました。その後も様々な意見が出され、最後に目黒町長は「町民のための役場というイメージを大切に工夫し考えていく。今日の意見を考慮し、さらに検討を重ね計画する。取り進むにも時間を要するが、順次進

めていきたい」と考えを述べ、参加者からは、久しぶりに夢の話が聴けて出席して良かったという声もありました。充実した懇談会となりました。



▲あいさつをする目黒町長

教育委員に
辞令交付



只見町議会12月議会において教育委員の選任に同意がなされました。

新教育委員には、1月5日付けで角田行雄さん(63歳・小林)が就任しました。

角田さんの任期は、平成24年1月5日から平成28年1月4日までとなります。

就任にあたって角田さんは、「只見町の教育事業振興のために頑張りたいと思います」と抱負を話されました。



磯部ヲエンさん(只見)

11月30日に目黒ハツノさんが、12月7日に皆川タカネさんが、12月9日には磯部ヲエンさんが満百歳の誕生日を迎えられ、同日に知事賀寿贈呈式がグループホーム和の里や自宅で行われました。

はじめに近内保二南会津保健福祉事務所長から知事賀寿と記念の木杯が贈られました。続いて、只見町、町議会、町社会福祉協議会、町老人クラブ連合会、各地区老人クラブなどから記念品などが贈られました。また、親族の方などからは、お祝いの花束も手渡されました。皆さんの長生きの秘訣は、好き嫌いなく食べること。とのことでした。

百歳賀寿おめでとーうございます



目黒ハツノさん(黒谷)



皆川タカネさん(楢戸)

实用英語技能検定・準2級合格 菊地 美結さん(明和小6年)



▲菊地美結さんと馬場永好明和小学校長

明和小学校6年の「菊地美結さん」が、日本英語検定協会が行う平成23年度第2回实用英語技能検定で準2級に見事合格しました。一次試験が10月16日に、二次試験は11月13日に、いずれも会津若松市で行われました。英検の準2級は一般的に高校中級レベルとされ、合格率も35%前後と、小学生が合格するには厳しいレベルですが、菊地さんは、平成22年4月から学校の授業に加え、週2回英語塾で勉強、着実に実力をつけ英語を習い始めてわずか1年半程度での合格となりました。菊地さんは「二次試験の面接で英語を話すことが難しかった。勉強は大変だが準2級に合格できてうれしい。次回1月中旬に行われる試験で2級にチャレンジします」と目を輝かせ、元気に話しました。

7月豪雨災害で孤立した集落などに配備

衛星電話や簡易発電機

7月29日に発生した豪雨災害で孤立状態になった地域や孤立の可能性が高い集落に対し、非常時に対応するための衛星電話と、さらに家庭用カセットボンベ2本を燃料に発電可能なガス式簡易発電機が配備されました。配備された集落や地区は、塩沢、寄岩、蒲生、八木沢、入叶津、黒谷入、塩ノ岐、布沢の8集落(地区)です。各対象集落の区長の皆さんに対しての説明会も、12月9日に役場本庁で行われました。



▲配備された衛星電話と発電機(右)

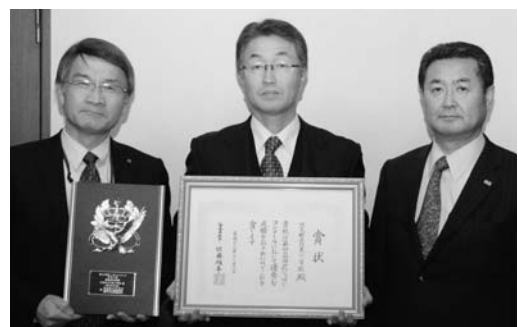
7月の豪雨災害にも負けず花壇をみんなで管理
只見小学校・花いっぱいコンクール福島県知事賞受賞

福島県緑化推進委員会などが主催する第44回花いっぱいコンクールにおいて、只見小学校が団体の部で福島県知事賞を受賞しました。

只見小学校では、児童・教職員・保護者が一丸となり、同校の花壇をはじめ各地域に整備されている花壇の世話をし、緑化と教育環境の美化を推進しています。平成23年度の取り組みでは、7

月29日に発生した豪雨災害の影響で、夏の暑い時期に思うような活動や花の世話ができず、苦勞しましたが、児童をはじめみんなが例年以上に協力し、諦めずに世話を続け花の終わる時期まで彩り豊かな花壇が楽しめました。

自然を愛し保護する心を養う
このような活動が高く評価され、今回の受賞となりました。おめ



▲賞状を手にする高橋吉博只見小学校長と目黒町長(右)、齋藤教育長(左)

でとうございます。